愛媛新聞　（第3種郵便物認可）

80回 県高校総体

第80回県高校総体（県教委、県高体連など主催、愛媛新聞社など後援）の先行開催競技・自転車が24日、松山市の瀬戸風パンクであり、松山学院が8種目を制して総合9連覇を果たした。

県総体は地区予選廃止に伴い、30、31日と6月5～8日の6日間の日程で実施する。

松山学院盤石 V9

3年4人成長 安定の走り

全国常勝 見据える

松山学院は圧巻の戦いぶりだった。昨年の全国高校総体の総合優勝8連覇に貢献した3年生4人が実力を発揮。県総体の総合9連覇を果たした。

昨年は2年主体のチーム。エース格の松田奏太朗や、現主将の井上悠喜らが中長距離の種目で頂点に立つなどした。

さらに3月の全国選抜では山崎帝輝や日高虎太郎が短距離種目で優勝。全国高校総体を経験した4人が中心となり、まずは県総体総合9連覇への挑戦が幕を開けた。

戦いぶりは安定していた。最初のチーム戦となるチームスプリントに松田、日高、山崎が出場。「個人練習が多く、チーム戦はほぼぶっつけ本番」（日高）ながらも、2位を6秒以上離して1位となり、勢いをつけた。

さらに松田が全国3連覇中の3000㍍個人追い抜きで2位を35秒近く離す独壇場を披露すると、個人の短距離種目で山崎が2種目、日高が1種目で頂点に立った。

最後のポイントレースでは長距離が得意な井上が「たまたま作戦がうまくはまっただけ」と言いながらも、すべてのチェックポイントで1位通過し、2位以下を周回遅れにする無双ぶりを見せた。

チームが目指すのは全国総合9連覇。約2カ月の戦いに入った井上主将は「力を出し合い、目標を達成したい」と頂上を見据えた。（宇和上麗）

【チームスプリント決勝】1分15秒945の好タイムで優勝した松山学院のメンバー（左から山崎、松田、日高）【ポイントレース決勝】レース序盤からレースを引っ張り優勝した松山学院の井上悠喜（右から2人目）＝いずれも瀬戸風パンク

自転車

▽男子スプリント ①山崎帝輝（松学）②藤本（松工）③上田（松工）

▽3000㍍個人追い抜き ①松田奏太朗（松学）3分22秒747 ②後藤田（平成）3分51秒532 ③原田（松学）4分11秒252

▽4000㍍連続総定 ①武内雲龍（松学）5分49秒584 ②大谷（松学）③吉田（松学）

▽スクラッチ ①松田奏太朗（松学）7分58秒864 ②井上（松学）③長谷（松学）

▽1000㍍タイムトライアル ①山崎帝輝（松学）1分5秒486 ②日高（松学）1分8秒722 ③上坂（聖陵）1分11秒488

▽ケイリン ①高虎太郎（松学）11秒623 ②大野（聖陵）③吉田（松学）

▽ポイントレース ①井上悠喜（松学）45点 ②各務（松学）25点 ③大谷（松学）マイナス2点

▽チームスプリント ①松山学院（日高、松田、山崎）1分15秒945 ②松山工1分22秒346 ③上田（松工）1分25秒088

▽400㍍チーム追い抜き ①松山学院（井上、日高、松田）4分49秒849 ②松山聖陵4分49秒822 ③松山工4分59秒032

◇総合得点 ①松山学院80点 ②松山聖陵36点 ③松山工25点

松山学院は3連覇中の百の優勝アル。①井上悠喜（聖陵）1分20秒7 ②長谷（聖陵）1分25秒315 ③富田（松学）1分41秒453

▽3000㍍個人追い抜き ①井上悠喜（聖陵）4分13秒423 ②黒田（聖陵）4分24秒251 ③富田（松学）4分31秒623

▽200㍍フライング ①井上悠喜（聖陵）13秒453 ②富田（松学）13秒122 ③日野（松工）13秒338